



▲秋田のみなさんと一緒に森林祭。植えた樹が育つことを楽しみに…



秋田県で行われた植樹式典に参加

後半スタートの7月は秋田県へ。
あきた水と緑の森林祭では植樹式典にてイタヤカエデを植えました。スムーズに植樹作業をしよう自分に、「もう半年経ったんだ」と実感しました。そんな秋田では東北チエーンソー競技会も開催されていました。

チエーンソーの腕自慢たちが、仕上げた繊細な作品たち。思わず「これがほしい、あれがほしい」ととても楽しませて頂きました。私のお気に入りにはくまとアラジンのジーニー。持って帰りたかったです。

地元近くの多摩川上流域を視察

続いては私の地元、羽村市の周辺のお話です。
東京都森林事務所さんのお力をお借りして、多摩川上流域の林業を視察してまいりました。



▲チェーンソーアートの作品達です

まずは青梅市成木地内の主伐地へ。「主伐は全部伐るだけ」と簡単に考えていましたが、運び出すことを考えると東京の山は急なところが多く、高度な技術が必要な場面も多いそうです。東京だけでは技術者が足りず、地方にも応援をお願いしていると感じました。しかも作業の本当の難易度は実際に現場を見てみるとわからず、仕事を引き受けてから作業が思うように進まないこともあるそうです。

林業に関わる人が増えて欲しいです。どんなきつかけがあれば、木やみどりについて多くの方が興味を持ってくれるだろうか？と心が動かされた現場でした。

温もりあふれる多摩産木材の魅力に触れる

多摩木材センターには、加工を待つ木材たちがたくさん並べてありました。ブランド力がある多摩産木材はここでしか手に入らないそうです。市場の方は「木を育ててきた山主さんたちに、少しでも還元してあげたい」と話していて、山主さんのことを第一に考えているのが印象的でした。

多摩産材といえば最近リニューアルした奥多摩駅が話題です。駅舎にふんだんに木が使われており、名物の駅看板は品があり立派で迫力がありました。駅には30分に1本しか電車が来ないことを活かして、木を感じるおしゃれなCAFÉが

あります。待ち時間を快適にすごせるので、奥多摩に来た際には駅を楽しみ、CAFÉを楽しんで下さいね。

次は奥多摩駅の看板を作った沖倉製作所へ伺いました。見たことのない加工機械がずらり！代表の沖倉さんは「今の時代、材木屋はなんでも出来なければいけない！」と仰います。工場内で色々な機械や作業している方を見ているうちにその意味が少しずつ理解出来ました。新たな技術、安全の確保、人にしか出来ない繊細な高度な技術。これらを組み合わせることで「こういうものが欲しい、ああいう生活がしたい」という希望を叶えることができます。広葉樹で出来上がったばかりのテーブルを拝見させて頂きましたが、とにかく温かみがあり、この世にひとつしかないオリジナル感がとても素敵でした。私もこだわった木材でお家を建てたい、家具がほしいと強く思いました。

木に携わる多くの方の努力と地元材への思い、そして森林・林業界の未来のために、私は木の魅力を「表現」することについて考えていきたいと思えます。



▲多摩産材を使用し、山小屋風リニューアルされた奥多摩駅前にて